

調査研究部会報告②

宜野湾市立公民館図書室をアクティブに 学生によるプレゼンテーションの報告

沖縄国際大学司書課程受講生

■趣旨説明

沖縄県図書館協会調査研究部会は、『沖縄県図書館協会誌』第18号(2014)にて、宜野湾市立公民館図書室のレポートを掲載しました¹。このレポートの中で、小さな図書室ながらも利用者に愛され、豊かに営まれている活動に注目する一方で、資料費や職員の少なさ、それをカバーする上で期待される宜野湾市民図書館との連携が不十分であることなど、今後の課題・改善点にも言及しました。

その後も、公民館図書室担当者的上原千佳さん(司書有資格者)と情報交換をしながら、問題点を共有し、図書室をもっと活性化させる(利用者を増やす・市民的な価値を高める)ためにはできることはないか、司書を目指す大学生とともに考えてみたいと申し出て、2015年10月からの沖縄国際大学の講義「図書館情報学特別演習Ⅰ」の取り組みとして、沖縄県図書館協会調査研究部会の共催の下で、図書室へのプレゼンテーションに取り組むことになりました。

今回のプレゼンテーションの準備は次のようなスケジュールで進めてきました。

- ① 2015年12月7日(月) 中央公民館図書室を訪問し、施設を見学するとともに、司書上原さんにインタビュー。「利用状況は?」「人手や資料費がなくてできないことは?」などを聞く。

- ② 2015年12月7日・1月4日 沖縄国際大学図書館4Fラーニングcommonsにて、図書館(室)活性化に関する先行研究を調べ、提案内容を話し合い、プレゼンテーションファイルを作成する。



- ③ 2015年1月18日(月) 沖縄国際大学図書館にてプレゼンテーションのリハーサル。改善点を検討する。
- ④ 2015年1月25日(月) 宜野湾市立公民館研修室(1)にてプレゼンテーション大会を開催する。

プレゼンテーション大会では、図書室担当

¹「宜野湾市立中央公民館図書室に期待すること 図書室 司書・上原千佳さんに聞く」『沖縄県図書館協会誌』第18号, 2014.12, pp.98-103

職員である上原千佳さんはじめ、宜野湾市民図書館より、辻純一館長、比嘉高志係長にもお越しいただきました。本レポートでは、沖縄国際大学司書課程にて司書を目指す学生たちによるプレゼンテーションの概要と、当日のディスカッションの様子をご紹介します。

■各グループのプレゼンテーション (発表シナリオより)

グループA「劇的!! 図書室ビフォーアフター ～来館しやすい図書室に～」

本日 1 番目の発表を担当する、玉城愛佳、柳堀夏乃、瀬良垣杏です。私たちが、宜野湾市立公民館図書室に提案したい発表テーマは「劇的!! 図書室ビフォーアフター～来館しやすい図書室に～」です。はじめに、私たちのプレゼンのテーマを説明します。

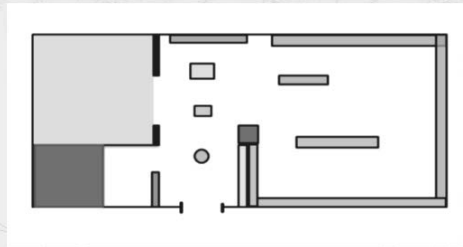
私たちは宜野湾市にある大学に通っていますが、市立公民館に図書室があることは講義を受けて初めて知り、驚きました。

事前訪問で気になった点はこちらの 2 点です。まず、図書室として必要とされるものが少ないのではないかとということ、次に、公民館入口から図書室までの案内が目立たず、図書室の存在が分かりづらいことです。しかし、落ち着いた雰囲気があり、話題の本が手取りやすい、魅力あふれる図書室だと感じました。このことを踏まえ、図書室内外のレイアウトに工夫をし、より利用しやすい図書室となり、利用者の増加と図書室の活動促進につながるのではないかと考えました。本日は使いやすい図書室にするための室内レイアウトについて 3 点、公民館入口から図書室への室外レイアウトについて 3 点を提案します。

まず、室内レイアウトの提案として大きくわけて 3 点提案します。

1 つめの提案は室内案内図の作成・掲示です。図書室に初めて訪問した際に室内案内図がないことが気になりました。室内案内図は初めて図書室を訪れる利用者にとっては(小さい図書室でも)、目的の本を探す手助けとして必要なものです。

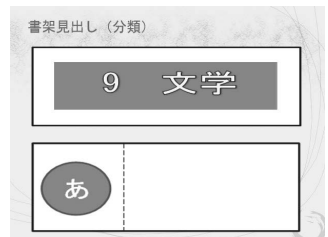
室内レイアウト① 室内案内図



スライドをご覧ください。これは私たちが考えた案内図の一例です。このようにコーナーごとに色分けすることでコーナーが分かりやすくなります。また、一般コーナーは水色や緑などの落ち着いた色合いに、児童コーナーはピンクや黄色、オレンジなどポップで明るい色合いにし、親しみを持ってもらえるよう工夫しました。さらに、案内図の色と書架見出しのポップの色を連動させることで、探しやすく見やすい図書室となるだけでなく、統一感と明るさが出て居心地も良くなると考えました。また、書籍の並び順に沿った仕切りがあると、さらに本が探しやすく、利用者に優しい図書室になりますね。スライドは私たちが考えた書架見出しと仕切りの例です。仕切りに関しては一般コーナー、児童コーナーなど各コーナーで使用するので、色分けがあると便利です。

2 つめの提案は記念文庫の移動です。児童コーナーの横にある「上原記念文庫」ですが、見たところ利用頻度は低く、埃をかぶっているようでした。子ども向きの図鑑などもありますが、古い資料が多く、内容も最新のものではないことから、調べ学習などには不向きな面もあります。これらのことから児童コーナーの横にあるのはあまりよくないのではないかと思います。これらの移動を提案します。

移動先としては、利用頻度が低い本は閉架



書庫へ、利用される本はそれぞれの分類の書架に置くことが望ましいと思います。コーナーを崩すことになるため、記念文庫をファイル化し、利用者に提供できる状態にすることが必要とされます。ファイル化の内容として、書誌情報だけでなく、その内容や表紙などの情報を載せることが好ましいと思います。そうすることで、利用者が本を手に取りやすくなるのでこの方法を推奨します。

また、そのほか書籍の移動として、文学全集の移動とカード目録の処分もしくは閉架への移動も検討する要件として提案させていただきます。一般コーナーに中高生が興味を持ちそうな文学全集が置かれていたので、YAコーナーもしくは児童コーナーへ移動しても良いのではないのでしょうか。

そして、カード目録の移動ですが、現在は更新も止まっていて使っていないようなので、動かせるならば処分しても良いのではないかと思います。図書館学の資料として貴重でもあるので、スペースがあるならば閉架書庫への移動でも良いと思います。

3 つめの提案は書籍案内です。宜野湾市立公民館図書室は OPAC がないため、本の検索が出来ず、新刊や話題の本を利用者が認識できません。宜野湾市民図書館では予約待ちの本がこちらでは借りやすいのに(例えば、又吉直樹さんの『火花』は宜野湾市民図書館では3冊に対して50人待ちですが、こちらでは2、3人待ち程度で借りられるそうです)、その本があることを利用者に知らせる術がありません。そのため、こちらからのアピールが必要とされます。その方法として「新刊案内」と「おすすめの木」の掲示を提案します。

新刊案内の方法としては、こちらの方法を提案します。スライドをご覧ください。



まず、新刊の写真を用意し、その隣に新刊の書誌情報やあらすじなどの説明文を添えます。これを新刊コーナーに設置し、写真の前に実物を配置します。こうすることで、新刊が借りられても、掲示物として新刊案内ができます。

おすすめの木は利用者に匿名で本をおすすめしてもらう掲示物のことです。こちらが実物を縮小したサンプルです。サンプルを見せる。匿名で行うことで、利用者が気兼ねなく本をおすすめできるのではないかと考えました。方法としては、葉の形や花の形の紙を置いておき、利用者に自由におすすめの本を書いてもらいます。



その際に、記入例を置いておくと、利用者も記入しやすくなります。それを木を模した掲示物に貼り付けしていくだけで完成です。季節によって、葉の色を変えたり、桜を咲かしたりと工夫することで季節の掲示物として利用できます。室内レイアウトの提案は以上となります。

次に、公民館入口から図書室までの室外レイアウトについて3点提案します。公民館に訪れた際に公民館内の図書室への案内板は、図書室の存在を知ってもらうきっかけとして重要な役割を持っています。しかし、宜野湾市立公民館図書室は案内板が目立っておらず、公民館入口やエントランスにポスターもない。

図書室の広報アピールが弱いと感じました。なので、広報アピールを中心として室外レイアウトを考えてみました。

1 つめに利用者増進のポスターの掲示です。前回訪問した際に公民館入口の掲示板に空きがあるのを発見しました。そこを是非活用できないかと思い、図書室に興味を持ってもらえるようなポスターの掲示を提案させていただきます。このポスターの内容は利用案内など、ただの図書室便りではなく、おすすめの本の紹介やイベントの紹介、図書室の魅力アピールなど、利用者の目を惹くポスターが好ましいと考えます。公民館は地域行事が多くあるので、公民館利用者に図書室の存在を知ってもらうためにもなるのではないのでしょうか。また、広報ポスターを宜野湾市民図書館に掲示してもらうことで、公民館図書室に興味を持ってもらい、足を運んでもらうきっかけが出来ると考えられます。



2 つめは廊下の看板に対する工夫です。図書室前の廊下にはすでに吊り看板があります。しかし、正直目立ちません。白地に黒のシンプルなデザインなので、もっと色味を出すなどの目立たせる工夫が必要だと感じました。たとえば、本の形にすると文字だけでなく視覚的に分かりやすい看板になるので、看板自体も目立つし、図書室の広報アピールにもなると思います。子どもにとっても分かりやすくなります。また、矢印を取り入れることで、図書室への誘導をよりしやすくなります。さらに、階段が建物の両側からあるのに対し、看板は一方にしかありませんでした。壁に案

内看板をはるのは厳しいとのことだったので、立て看板の設置を提案させていただきます。図書室のある4階だけでなく1階や2階に設置するのもよいと思います。図書室の写真や「図書室まであと何歩」といった掲示などがあってもおもしろいですよね。

3 つめの提案は出張書架の設置です。

「え！でも、管理が大変じゃ・・・」

「安心してください！ 考えていますよ！」

出張書架は公民館入口にスペースを取って設置します。実際の本を置くのではなくダミーの本を置くことで紛失や破損を防ぐことができます。また話題の本や人気の本のダミーを設置することで公民館利用者の目を惹き、図書室へと誘致することもできます。看板と同じように図書館の広報アピールとして大きな効果が期待できます。

ダミーはダンボールや厚紙などで作成します。このとき実際に本と同じような形にし、表紙はコピーを貼り付け、裏には本のあらすじや見所などを貼り付けます。実際にダミーを手にし、その本の断片に触れることで、実物を手に取り読んでみたいという意欲が湧くのではないかと考えました。費用もそんなにかかりません。以上が公民館の入口から図書室への室外レイアウトの提案です。

最後に、もう一度提案内容をまとめます。

まず、使いやすい図書室にするための室内レイアウトについて、①室内案内図の作成・掲示、②記念文庫の移動、③書籍案内の3点、そして、公民館の入口から図書室への室外レイアウトについて、①利用者増進のポスターの掲示、②廊下の看板に対する工夫、③出張書架の設置の3点を提案します。

以上が私たちが提案する図書室の活動をよりアクティブにするための機能改善案ですが、私たちの提案には課題があります。まず、提案を実現させるには人手が必要になります。現在、司書の方が1人ということなので、これは大きな課題と考えられます。次に、提案のほとんどが持続性を持っており、1度だけでなく継続させなければいけません。その持続性を保つことが課題となりますが、現在の

体制では余裕がなく厳しい状況です。

この課題は人手の補充で改善できると考えます。もちろん司書の方の人員を増やすことが好ましいですが、予算的にはボランティアのほうが導入しやすいのではないのでしょうか。市民の皆さんとの協力や司書課程を履修している学生ボランティアの導入、宜野湾市民図書館からの職員派遣、ボランティアの連携なども視野に入れてもいいと思います。

宜野湾市立公民館図書室は、人員が増えることで提供できるサービスの質も、環境整備も向上すると思います。人手が増えることはできることが増えることに繋がり、利用者の増加や満足度に影響を与えます。職員不足の問題は避けては通れない課題だと考えられます。宜野湾市民図書館との連携も含めた職員制度の充実と、図書室の利用促進を期待して、私たちの提案を終了させていただきます。

ご清聴、ありがとうございました。

グループB「対象者別サービス、9時開館！全員集合」

Bグループの、新垣早紀、内嶺佳純、瑞慶覧千咲です。本日は「対象者別サービス、9時開館！全員集合」というタイトルで発表を行いたいと思います。初めに、私たちが提案したいテーマについて説明します。

私(新垣)は、高校生のころからこの公民館も何度か利用したことがあるのですが、図書室の存在を知りませんでした。(皆さんは知っていましたか？) 実際に、1日の来館人数が約10～30人と聞き、少ないと感じました。その理由には、私のように図書室の存在を知らない人もいるのではないのでしょうか。そこで、新規の利用者を増やし、さらに現在の利用者の利用頻度を増加させるために、利用の多い高齢者と子ども・保護者を主な対象として設定し、全体向けサービスを1点、高齢者向けサービスを2点、子ども・保護者向けサービスを1点、合計4点の提案をさせていただきます。

はじめに、図書室で行った方がいい、全体

に向けたサービスとして「サークル活動との連携」を提案します。

①全体向けサービス 公民館でのサークル活動との連携

●サークルで作成した、

作品を展示・発表



この公民館では月曜日から土曜日までたくさんのサークルが活動しています。それらのサークル活動と連携を取り、展示・発表の場を提供するのはどうでしょうか？

図書館は「知る自由」を保障する機関と言われていますが、知る自由と表裏一体の関係にある、「表現すること」にももっと積極的に関わるべきだという考え方が最近注目されています。こちらの例は学校図書館になりますが、島根県の松江市立女子高等学校の図書館において、吹奏楽部によるクリスマスコンサートが行われています。楽器演奏は静かな図書室に向いていないという考えもあるかもしれませんが、この公民館でのサークル活動にはトールペイントや生け花など展示できる表現活動も盛んなため、ぜひサークル活動との連携を考えてみてほしいと思います。

そして、作品の展示などと同時にサークル関連の本を充実させ、それを展示することも提案します。そうすることで、サークル活動に参加している方々のなかで、図書室を利用したことがない方に利用して貰えるのではないのでしょうか。また、一般利用者がサークル活動の展示物や関連資料などを見て、サークル活動に興味を持って貰えるかもしれません。連携の一環として、試しにサークル関連資料を



紹介するためのチラシを作ってみました。＜ここでチラシを見せる＞このようなチラシを作品展示・発表の呼びかけと合わせて行ってみてはいかがでしょうか。

次に、高齢者を対象としたサービスを提案します。

図書室を見学してみると、古い本も沢山あるというような印象を受けました。せっかくある古い本なので、「懐かし本紹介フェア」の開催をしてみてもはどうでしょうか？

こちらの棚にある本は 1960 年代の松本清張の『死の発送』という本です。私たちだと作者の名前は聞いたことあっても読もうと思いにくい本です。でも、昔読んだことあって、久しぶりにもう一度読んでみたいと思うシルバーの方々はいと思います。

②高齢者向けサービス

「なつかし本の紹介」フェア

●古い本や、傷んでいる本もたくさんあるが……



高齢者に向けたサービスとしてもう一つ「買う新聞の種類を増やす」という提案をします。いま図書室に置いている新聞は、「琉球新報」や「沖縄タイムス」の2つだけしか確認できませんでした。高齢者は、図書館に朝早く来館し、新聞を読みに来るという話をよく聞きますし、列になっていてなかなかすぐに読めないという話も耳にします。しかし、公共図書館で同じ新聞を何紙も買うことはできません。そこで、利用を分散させるためにこちらの図書室でも買う新聞の種類を増やしてみてもどうでしょうか。もちろん読みたい新聞が決まっている利用者もいると思いますが、新聞の種類が複数あると順番待ちの時間を有意義に過ごすことも出来ると思います。

さらに、沖縄の新聞だけでなく、全国の新聞も読みたいという利用者もいるかもしれません。県内新聞とは論調が違う全国紙も含めて幅広く資料を提供することも、図書館としては大切なことだと思います。

次に、子ども向けサービスについての提案をします。一つめは、布絵本の展示です。布絵本は触って楽しむことができるため、視覚に障がいがある子どもに楽しんで貰えるバリアフリー絵本ですが、まだ言葉がわからない乳幼児にも喜んでももらえると思います。布絵本の中には文字が書かれていない、あらすじがないような絵本もあります。保護者の方と一緒に、布絵本を触りながらお話を作っていくことができるのではないのでしょうか。今日は実際に布絵本を持ってきました。＜こちらになります＞



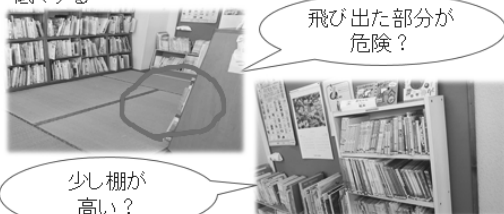
2 つめは、ぬいぐるみの設置です。以前、図書室に訪問した際は入り口でクリスマスの特集を組んでいて、それにちなんだ置物がありました。そこだけでもかわいかったのですが、せっかくなので、児童コーナーにも置いてみてはどうでしょうか。よりやわらかい印象になり、利用しやすくなると思います。もしよければ、私が持っているぬいぐるみを寄贈させていただきます。衛生面がやや心配ですが、こまめなアルコール消毒を行うことで清潔に保つことができると思います。

3 つめは、児童コーナーの棚の見直しです。

まず「上原清善記念文庫」についてですが、児童コーナーに置くよりも、一般の書架に移動したほうが良いと思いました。もし一般書架に置くスペースがない場合や利用頻度が少ない場合は閉架への移動、もしくはは一般的な「廃棄基準」と照らし合わせて廃棄する、という選択もあると思います。

4. 児童コーナーの棚の見直し(2)

絵本が飛び出さない棚に & 赤ちゃん絵本の棚を低くする



次に、絵本が飛び出さない棚の提案と、赤ちゃん絵本の棚を低くすることを提案します。大きめの絵本はどうしても棚のふちから飛び出してしまい危険を感じたためです。うっかり足をかけて転んだりしないよう、奥行きがある棚に変えてみてはいかがでしょうか。

また、赤ちゃん絵本の棚が高いと感じました。低い方が乳幼児も手にとりやすいので、こちらも変えてみてはいかがでしょうか。

以上が保護者・子ども向けサービスの提案になります。

さて、これまで4点の提案をしましたが、実践するには課題・問題点が残ります。

第一に予算の不足です。資料費は年間約33万円で、現状でも不足しているとお伺いしました。全国紙の購入や布絵本の展示、棚の買い替えをするにしても予算がないと実施は難しいかと思います。そこで、カウンターに「募金箱」を設置することを提案します。手軽に始められますし、図書室に愛着を持っている方が募金してくれるのではないのでしょうか。

課題・問題点

●資料費が少ない

→募金箱の設置

●人員が足りない

→ボランティア・学生ボランティア



2 つめは人手の問題です。日々の業務でも人手不足を感じることもありますが、サークル活動との連携や、なつかし本の紹介フェアなどの準備や広報には人手が必要になります。現在、図書室のボランティアは一人とのことですが、図書室内のお知らせや、公民館・役所などの掲示板で市民ボランティアを募集してみてはいかがでしょうか。もしくは、司書課程を受講している学生も多いので、学生ボランティアの募集をしてみるのもいいかと思います。

以上でBグループの発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

グループC「宜野湾市立公民館図書室、待避所としての図書室に」

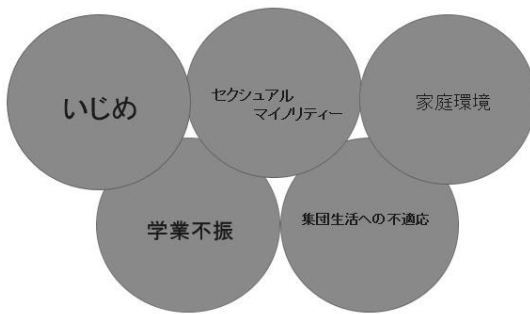
Cグループの発表を担当する上原健嗣、幸地真、屋良大稀です。私たちは「宜野湾市立公民館図書室を待避所としての図書室に変えていく」というテーマで発表します。

先日、公民館図書室を見学させていただいた際に、私たちは「数々の」改善すべき点があることに気付きました。

例えば、閉館時間が5時であること、校区の端にあり、子どもたちにとってはアクセスしづらい場所であること、職員が1人しかいないため昼休みはカウンターが無人になってしまうこと、さらにBDSが無く、蔵書の管理が難しいこと、貸出がコンピュータ式ではないこと、などです。

他のグループはこれらの問題点を改善する提案をしていましたが、私たちはこうした問題点を公民館の「個性」と考えることで、機能の充実がはかれるのではないかと考えました。これから、これらのデメリットをメリットに変えていくためのアイデアをいくつか提案させていただきます。

学校に居場所がない子どもたち



こうした観点から私たちが注目したい利用者層はこちらです<パネルをご覧ください>。いじめ、学業不振、セクシュアルマイノリティー、家庭環境、集団生活への不適応などの問題を抱える子どもたちは一定数存在します。そうした、「学校に居場所がない子どもたち」に注目することで、公民館図書室のデメリットが生かされるのではないかと考えています。

1 つめの提案はこちらです。ちょっと驚かれるかもしれませんが、「死にたくなったら行ってみよう、公民館図書室」という内容です。

皆さんもご存知かと思いますが、昨年9月1日、鎌倉市図書館が Twitter 上で「もうすぐ二学期、学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい」と呼びかけて話題になりました。また、長野県にある小布施町立図書館(まちとしょテラソ)では、教育委員会とも連携して、不登校の子どもたちが図書館で1日過ごすという制度が設けられていることが、(図書館のサイトでは公表されていないようですが)元館長の花井祐一郎さんの Twitter で確認できます。教育委員会の資料によると、宜野湾市にも一定数の不登校の子どもたちがいます。提案として、学校に居場所がない子どもたちをこちらの図書室受け入れてみてはどうでしょうか？

鎌倉市図書館
@kamakura_tosyok

フォロー

もうすぐ二学期。学校が始まるのが死ぬほどつらい子は、学校を休んで図書館へいらっしやい。マンガもライトノベルもあるよ。一日いても誰も何も言わないよ。9月から学校へ行くくらいなら死んじゃおうと思ったら、逃げ場所に図書館も思い出してね。

花井祐一郎
@OBUSERHYTHM

フォロー

小布施町立図書館まちとしょテラソでは、オープン間もなくから、不登校児を受け入れ。

学校、町教育委員会、県教育委員会と相談、図書館で勉強することを登校とみなすことに。

朝、学校から先生が図書館へ、生徒と朝礼をし活動。... fb.me/lkakl1Lm

不登校の子どもたちにどのように PR していくのか、という難しい問題もありますが、鎌倉市や小布施町のように Twitter を活用するというお金のかからない方法も考えられまし、各学校のカウンセラーや宜野湾市内にある適応指導教室とも連携することができるのではないかと思います。また、昼間に子どもが図書室にいと驚かれてしまう利用者もいると思いますが、図書室内でポスターを設置するなどして、移用者に温かく見守る必要性を訴えるのはどうでしょうか。

2 つ目の提案は、「いろいろな本を気兼ねなく借りられる」ということです。先ほど、立地条件が悪く、利用が少ないこと、BDS がないこと、貸出がコンピュータ管理ではないことなどを説明しましたが、私たちはそのことがかえって、「人目を気にせず本を選ぶことができる」というメリットにつながると考えました。

本の中には、マイノリティー関連や病気の本、つまり、人に借りていところを見られたくない、借りにくい本が存在します。思春期の中高生ならなおさらそうしたプライバシーを敏感に感じると思います。こちらの図書室は、1日30人程度と利用者が少なく、コンピュータで管理されていないので貸出記録が残らないという安心感があります。また、BDS もないため、精神的な負担もありません。

とすれば、市民図書館、学校図書館も含めて、他の図書館で借りにくい本を充実させることがこうした図書室の性質を生かした機能改善になるのではないのでしょうか。

ただし、現在の開館時間が5時までとなっている点については問題が残ります。中高生の下校時刻を考慮すると7時くらいまで開館していることが望ましいでしょう。その点は、大学の司書課程との連携でボランティアを導入するなどの工夫も必要だと思います。

3 つめの提案は「避難場所から交流場所への転換」です。私たちは、図書室の環境的な制約をあえて生かして、問題を抱える子どもたちが、学校以外で過ごすことのできる居場所づくりを提案しています。しかし、居場所を作るだけでは問題は解決しません。人間は人と交流しながら成長していきます。公民館図書室にもそうした社会教育の機能が求められるますので、逃げ場所から交流する場所へと転換することも大事だと思うのです。

例えば、同じような問題を抱える子たちが校区や学年を緩やかにつながるような「しかけ」が、この図書室でも何かできないのでしょうか。ここで私たちが提案したいことは、将棋やチェス、流行している「人狼」などのボードゲーム、トランプやタロットなどのカードゲームを図書室の資料として積極的に集め、それを館内で貸し出すことで、子どもたちの交流をプロデュースすることです。

図書室の資料として、ゲームを集めることには抵抗があるかもしれませんが、必ずしも珍しいことではありません。国外ではアメリカ・ドイツの公共図書館の「図書館でゲームをする日」が設けられていますし、国内では東京にある「武蔵野プレイス」という図書館を中心とする複合施設で、ボードゲームやパズルの貸し出しを行い、青少年の専用ルームも設けて、交流の場所と機会を提供しています。こうした取り組みによって、問題を抱える子ども



もたちが「家に閉じこもる」という状況を改善し、人間関係を広く構築することで学校生活に対して前向きになってくれるかもしれません。

これらの機能は公共図書館で果たすべきことかもしれませんが、市民図書館でも取り組むべきことが多いと思いますので、こちらの図書室が、その隙間を埋める存在になるとよいのではないかと思います提案しました。

最後に私たちの提案と課題をまとめます。

①不登校の子どもを積極的に受け入れる(教育委員会との連携)、②マイノリティ関係などの借りづらい本を充実させる、③ボードゲームなどの収集・提供を通して問題をかかえる子どもたちの交流を促進する、という3点です。これらは、現状の予算でもできる範囲です。図書室を居心地のよい居場所にかえてみませんか？

以上で私たちの提案を終わります。ご清聴、ありがとうございました。

■プレゼンテーションへの質問・評価

各グループのプレゼンテーションの後には5分間の質疑応答の時間を設けました。次のような質問とそれに対する学生からの返答がありました。当日、回答できなかった点もありましたので、一部補足してご紹介します。

- Aグループへの質問「図書室で本を紹介するときに、ダミーケースに表紙のコピーを貼り付けることは問題ないか？公民館図書室は公共図書館とは違うので著作権法の制限があるのでは？」➡
「本の表紙をポスター等にコピーして紹介することは“引用”の範囲に入るという解説があったので、その解釈をダミーケースにも適用すれば問題はないと思う。別の問題として、著作権法では、公民館図書室では利用者サービスとしての資料のコピーはできないと定められているので、資料の活用という面では限界がある。やはり図書室を市民図書館の分館として位置づけた方ができることが増えると思う」

- B グループへの質問「図書室に“募金箱”を置くことは法律上問題はないか？お金をもらうよりも資料を寄贈してもらう方が図書館としてはやりやすいのでは？」➡「公共図書館の事例だが、実際に鎌倉市図書館が募金箱を設置している。集まった募金は、郷土資料収集事業などを進めるための「鎌倉市図書館振興基金」に回されている。公民館図書室に募金箱を設置してよいかどうかについては、社会教育法第5章第33条によると「公民館を設置する市町村にあっては、公民館の維持運営のために、地方自治法第241条の基金を設けることができる」とあるため、鎌倉市図書館のように、募金を基金として図書室へ活用できるのではないかと（先に挙げた鎌倉市も基金に関する条例を制定している）。募金箱を置きっぱなしにすると管理上の問題も生じるが、鍵をかける、人がいなくなる時は事務所などに移動しておくなどの方法で対応できると思う」
- C グループへの質問「コンピュータでの貸出システムや BDS がないとなぜ心理的負担が少なく、マイノリティ関係の本を借りられるのか？ 学生の皆さんも、図書館には記録が残っている・監視されている、という不安があるのか？」➡「BDS がなければ本が借りやすいというのは、学校図書館などで事例として挙がっている意見を参考にした。学校図書館は BDS がないため、性教育やマイノリティ関係の本はこっそり持ち出して、後日、こっそり返却するというところもあるらしい。司書は専門職なのでもちろんプライバシーは守ってくれると思うが、司書との関係性によっては、司書を通してしか貸出ができないことが負担に感じる場合もあると思う。もちろんルール違反ではあるが、BDS がないこともメリットになるという意味で考えてみた」
- 全グループへの質問「いろいろな提案の

中で、人手不足をボランティアで解消する、という意見が多かったが、言うのは簡単だが、実際に集まると思うか？」「カウンター当番などの定期的なボランティアならお願いしやすいが、掲示物を作るときだけ来てほしい、といった形ではたのみづらい」➡「沖縄国際大学には私たちのような司書課程の学生もいるので、登録講義が少なくなる4年生になったらお手伝いできることも増えてくると思う。大学内の教職課程には、教育実習や学習ボランティアなど、大学時代から現場とのつながりがいろいろあるが、司書課程にはそうした現場経験を積む場所がほとんどなく、図書館の仕事を十分に知らないまま有資格者として現場に出てしまう、という不安がある。司書になりたければこうした経験は学生時代でも大事だと思うので、私たち自身もぜひやってみよう」

今回のプレゼンテーション大会では、図書室担当の上原さんには、「実際に採用したい提案はどれ？」という観点からの評価をお願いしました。その結果、次の提案について上原さんより高い評価をいただきました。学生へのアドバイスも含めてご紹介します。

- A グループの「読書の木」について：「カウンターで“この本面白かったです”、という声をよく耳にするので、利用者にもほかの人に紹介したいという気持ちがあると思う。季節ごとに木や花のイメージも変えていくという点も面白い。最初の1人は枯れ木だと貼りづらいと思うので、最初に皆さんにもいくつか書いてもらおうとよい取り組みになると思う」
- B グループの「懐かし本フェア」について：「いまある古い資料を捨てるのではなく、生かそうという発想が面白い。市民図書館ではもう廃棄している小説もけっこうあると思う。お金や人手がかからない取り組みということではとてもよいアイデアだと思う」

- Cグループの「マイノリティ関係資料の充実」について：「利用者が少ないという点を強みに変えるという着眼点は面白いと思ったが、今よく使っている利用者はどうなるのかな？、と気になった。マイノリティ関係の資料が借りづらいと指摘はなるほどと思ったので、今ある資料が借りやすくなるような雰囲気を作っていきたい」

宜野湾市民図書館の皆様からは、プレゼンテーションに対して次のような貴重なご意見をいただきました。今後の授業にぜひ取り組みに生かしていきたいと思います。

- 「読書の本や案内板の色分け、など面白い提案もいくつかあったが、提案だけでなく、実行する方法をぜひ検討してほしい。皆さんもボランティアとして図書館とどうかかわるか、考えてほしい」
- 「ゲームの貸出などを通して“中高生の居場所をつくる”という提案は面白いと思ったが、狭い図書室でそれをする、そのほかの利用者の排除につながる。図書室ではなく、広いスペースがある図書館でそれを取り入れた方がよいと思う」
- 「ただ提案するだけでなく、先行事例をきちんと調べて紹介している点は大学生らしい取り組みだなと思った。しかし、他の地域で出来ること、成功していることが宜野湾市で必要とされているわけではないと思う。宜野湾市の地域性、公民館の立地、求める利用者層など、いろいろな条件をふまえた提案になっているのもっと面白くなると感じた」
- 「先行事例をもとにした提案だけでなく、学生らしいもっとオリジナルの提案があってもよかったと思う」

■おわりに・今後の課題

本授業(図書館情報学特別演習Ⅰ)は 2016 年度前期には「Ⅱ」として開講される予定です。ご講評でも指摘がありましたが、図書室

担当の上原さんにも協力していただきながら、「提案」するだけでなく、ぜひ「実現」できるところまでしっかりと取り組んでいきたいと思っています。

また、今回は大学での司書課程の授業と宜野湾市立公民館図書室とのコラボレーションを企画しましたが、宜野湾市民図書館はもちろん、様々な図書館ともつながりを持ちたいとも考えています。例えば、展示の企画やお話し会・ブックスタートのお手伝いなど、座学が中心の司書課程の授業では取り入れられないような実習的な要素を授業に取り入れたいと思っていますし、何よりも、そうした大学と現場との連携を通して、「司書になりたい」という夢をもって学んでいる司書課程の学生がたくさんいることを、図書館の皆様、そして、市民にも知ってもらえる機会を増やしていければと思っています。

今回は「公民館図書室をもっとアクティブにするには？」というテーマでの授業の取り組みを紹介しましたが、今回の提案や今後の実現を通して、司書課程の授業もまた「もっとアクティブに」変わっていくべきだと考えています。これからも図書館現場の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

■プレゼンテーションの参考文献

- ・ 公立図書館の経営調査委員会編『こうすれば利用がふえる』日本図書館研究会, 1997
- ・ 尼川ゆらほか『図書館を演出する』人と情報を結ぶWEプロデュース, 2010
- ・ 益子一彦『図書館空間のデザイン』丸善出版, 2010
- ・ 大平睦美『学校図書館をデザインする』全国学校図書館協議会, 2012
- ・ 日本図書館協会施設委員会編『21 世紀に向けての図書館施設のあり方を考える』日本図書館協会, 2000
- ・ 吉岡裕子・遊佐幸枝監修『発信する学校図書館ディスプレイ』少年写真新聞社, 2015
- ・ 立野井一恵『日本の最も美しい図書館』エクスマレッジ, 2015
- ・ 『ライブラリー・リソース・ガイド LRG』(3), アカデミック・リソース・ガイド, 2013.5
- ・ 「石川県立図書館 布絵本」
<http://www.library.pref.ishikawa.jp/kids/cloth.html>, 2016.1.14 アクセス
- ・ 「鎌倉市図書館」

- <https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/fund.html>, 2016.1.20 アクセス
- 「松江市立女子高等学校 平成 27 年度 学校行事報告」
<http://www.shijyo.city.matsue.shimane.jp/dir5/page65.htm>, 2016.1.4 アクセス
- 「山口市おはなししながら読みたいね「布でできた手作り絵本」」
<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=6345>, 2016.1.14 アクセス
- 中井俊明・本間友己編著『不登校・ひきこもりと居場所』ミネルヴァ書房, 2006
- 「山中湖情報創造館 図書館でゲーム、家族連れ楽しむ」『毎日新聞』2014.11.18 朝刊 25 面
- 「11 月 21 日は図書館でゲームをする日」
<http://current.ndl.go.jp/node/29881>, 2016.1.20 アクセス

- 「図書館で貸出しできるモノ、拡大中。米国サクラメント公共図書館が“Library of Things”を開始」<http://current.ndl.go.jp/node/28161>, 2016.1.21 アクセス
- 「ドイツ図書館協会、「図書館の日」に図書館カードゲームを作成・頒布」
<http://current.ndl.go.jp/node/9176>, 2016.1.21 アクセス
- 「なぜ図書館は『ダンジョンズ&ドラゴンズ』を所蔵していないのか」
<http://current.ndl.go.jp/node/29587>, 2016.1.21 アクセス

(まとめ：山口真也)

やまぐち しんや：沖縄国際大学



技術とサービスで地域に貢献する
株式会社 **国建システム**

TEL (098) 867-7584 FAX (098) 866-5965
URL <http://www.kunisys.co.jp/>

- コンサルテーション（システム企画・提案、調査、分析）
- システム開発（官公庁、サービス業、建設業等）
- パッケージ開発（パッケージソフトウェアの設計・製造）
- ネットワーク関連（ネットワークの提案・設計・構築等）
- 機器販売（各種ソフトウェア販売、IT関連機器販売）
- 保守サービス（ソフト、ハードウェアの維持管理・保守）